

光和精鉱(株) 50年のあゆみ 創立50年全員配付

光和精鉱の歴史		西暦	硫 酸	ダスト処理	塩化揮発・ペレット	廃棄物処理 (焼却処理)	廃棄物処理 (抽出処理)	芒硝・その他	トピックス
昭和35年	会社設立 (S36.2.10)	1960							
昭和36年		1961							
昭和37年	光和プロセス(竖型炉) 設備技術上の問題 克服年代	1962	第1硫酸工場完成(モノ式シグモコクト)		No1竖型焼成炉完成、ペレット生産開始				
昭和38年		1963			No2竖型焼成炉完成				
昭和39年		1964				No3竖型焼成炉完成			
昭和40年		1965	硫酸鉄処理開始 含有砒素焼成の再焙焼実施			1号ローリー完成 1号ローリー完成			
昭和41年		1966	焙焼脱砒技術完成(分散給鉱装置)		2号ローリー完成 カーイクターから真空冷却装置へ変換			戸畑製造所完成披露	
昭和42年		1967	第2硫酸工場完成(ルギ式ダブルコクト)		2号ローリー完成、ヒスマス回収設備完成				
昭和43年		1968			金属ヒスマス回収設備完成				
昭和44年		1969	塩化鉄濃縮設備完成		ガス洗浄塔充填塔からTCAへ変更 2段焼成バーナー完成			同和精鉱株式会社設立	
昭和45年		1970	第1硫酸工場ダブルコクト化、 硫酸黄濁処理開始		1号キルンマルチターネット			研究棟完成 アメリカ・レットプラント技術供与(稼動1972~)	
昭和46年		1971	80m煙突完成		2号キルン中間エアー、塩素が吹込メ 液処理設備増強、排水処理設備完成			苦小牧・レットプラント技術供与(稼動1972~)	
昭和47年		1972			取銅設備の増強			ルーマ・レットプラント技術供与(稼動1978~)	
昭和48年		1973	4段中和処理設備		1号ローリー更新 排煙脱硫設備完成(HI石灰石膏法)			第1次バク選鉱~S53	
昭和49年		1974	硫酸工場操業短縮開始		貯蔵ビン完成				
昭和50年		1975		高炉湿ダスト処理の研究		産業廃棄物処理業認可取得			
昭和51年		1976	硫酸第2工場休止		塩化カルシウム回収設備完成	乾式&湿式銅浮選処理設備 PDC処理設備、硫酸黄濁処理設備 廃セラミック処理設備 チン酸硫酸処理設備		中国・レットプラント技術供与(稼動1980~)	
昭和52年		1977	排煙脱硫設備(塩基性アルミ)完成	4号炉での高炉二次灰処理開始	タール洋燃料化設備			がら・レットプラント技術供与(稼動1980~)	
昭和53年		1978		(ペレット原料)				塩化揮発ペレット法が再資源化貢献企業表彰 人員合理化	
昭和54年		1979	チン酸硫酸処理開始					[チン酸処理]で八幡製錬所長より感謝状	
昭和55年		1980	硫酸がスロウVVVF化	廃熱回収設備(熱交)完成 I770VVVF化 高炉二次灰事前処理(脱カル)	燃料にCOM、粉コークスの使用				
昭和56年		1981	3号焙焼炉更新 70%硫酸製造開始	ダスト流動冷却炉による廃熱回収	沈殿銅連続回収設備完成 ダストタンクへ撤去→冷却塔1基化			COG脱硫廃液処理設備完成 光和・ロボ特許権を東洋エンジニアリング(株)へ	
昭和57年		1982	1号焙焼炉更新(2,3号炉で硫酸製造)	給鉱2系列化(硫化鉱ダスト) 1号炉でのダスト処理開始(ペレット向け) 4号炉でモノ鉄原製造開始 4号炉乾粉類の乾式フィーダー開始				黒鉛回収設備完成 人員合理化	
昭和58年		1983	1~3号炉での硫酸製造 硫酸濾過装置増設 がら精製塔設置(硫酸Hg対策)	1号炉は硫化鉱焙焼を復活 4号炉はペレット原料ダスト焙焼 排煙脱硫を水切り方式に変更	鉛浮選による金銀の回収(沈殿銅へ) 沈殿銅回収バッチ方式へ戻す				
昭和59年		1984							
昭和60年		1985	釉薬用鉄原(硫酸鉄)製造開始		回収塩が脱カル設備設置 三井チン酸処理開始				
昭和61年		1986						釉薬製造開始(~S62) 鉄粉物からの素弁柄製造開始 産廃営業部開設	
昭和62年		1987	海外より原料硫化鉱を調達		2号ローリー-キルン休止	産廃専用焼却設備完成 (2号ローリー-キルン転用)		素弁柄製造休止 黒鉛事業が再資源化貢献企業表彰(通産省)	
昭和63年		1988							
平成1年		1989							
平成2年		1990				空ドラム缶焼却用固定炉設置 真空冷却装置復旧(産廃増処理) DAMカッターの開発・実用化		光和安全会発足 計量証明事業開始 DAMカッターが福岡県発明考案優秀賞を受賞	
平成3年		1991	海外硫化鉱が原料の2/3		回収原液の全量濾過開始			秤量機移転更新 光和安全会発足	
平成4年		1992						計量証明事業開始 DAMカッターが福岡県発明考案優秀賞を受賞	
平成5年		1993				2号固定炉完成			
平成6年		1994							
平成7年		1995	溶融硫酸黄濁処理設備完成	モノ原料製造設備完成 (1号炉復活)	原料を製鉄集塵ダストに転換	佐賀県唐津汚染土処理		コカ・電池からのNi,Cd回収 開始(~H17) 広島砒素汚染泥処理開始(~H10)	
平成8年		1996	硫酸がスロウを蒸気タービン化		ミストコクト、洗浄塔増強、60m煙突完成	ナホク流出重油処理		ナホク流出重油処理で海上保安庁より感謝状	
平成9年		1997	新3号ローリー完成(2,3号ローリー統合)	ワイヤ損傷上昇改善対策実施					
平成10年		1998							
平成11年		1999	多管式硫酸クーラー完成(177-ジョーカー廃止)						
平成12年		2000	溶融硫酸による硫酸製造中止 (硫酸中継基地化)	1号炉ダスト処理MC復活(DXNs対策)	ペレット系/産廃系ガス処理分離	7ルキルン処理開始		黒鉛製造休止	
平成13年		2001				排ガス・イキルン除去設備完成		創立40周年記念式典 産廃処理優良企業表彰(北九州市)	
平成14年		2002				産廃専用焼却設備更新 ダスト処理、POPs処理開始		関西営業所開設	
平成15年		2003				7ルキルン処理開始		No170倉庫火災事故	
平成16年		2004	80m煙突解体撤去	モノ焼成気流搬送設備完成				貯鉱場(ヤード)建屋化	
平成17年		2005							
平成18年		2006		モノ原料製造設備更新(2号炉) 2,4号炉共通排水処理施設完成		塩類溶解設備完成	一廃灰リサイクル事業開始	工場排水へのA重油漏洩事故 エコアクション21認証・登録、マラソンの清掃活動	
平成19年		2007					飛灰リサイクル設備増強		
平成20年		2008							
平成21年		2009							
平成22年		2010				揮発ペレット燃料LDG化			
平成23年		2011							
平成24年		2012							
平成25年		2013							
平成26年		2014							
平成27年		2015							
平成28年		2016							
平成29年		2017							
平成30年		2018							
平成31年		2019							
令和元年		2019							
令和2年		2020							
令和3年		2021							
令和4年		2022							
令和5年		2023							

